

* 環境省主催・知床財団運営 *

『知床らうす自然講座』

第 5 回 「トドのひみつ」

【講師紹介】

石名坂 豪 (いしなざか つよし)
(財)知床財団羅臼地区事業係(研究員)



大学の卒業論文以来 10 数年、トドやアザラシの生態解明を主な研究テーマとする。日本で最も多数のトドやアザラシを解剖したことがある獣医(たぶん)。トドを開腹して卵巣の大きさを見れば、排卵経験があるかどうかわかる。札幌在住の大学院時代も本州で働いていた時も、年末年始はトド調査のため必ず羅臼に出発していた。羅臼に住む現在、仕事上はエゾシカ・ヒグマ・観光客に関わる比率が高いが、相変わらず冬の海岸線でトドやアザラシを探している。

本日のお話の内容

冬になると、羅臼の海岸線ではトドの群れをよく見かけるようになります。でも昼間いる場所は、いつもほぼ同じです。なぜでしょう？また、トドは漁業有害獣であるために全道的に嫌われていますが、知床世界遺産の審査をした IUCN やユネスコは、ずいぶんトドに注目していました。これまた一体、なぜなのでしょう？

今回は、羅臼で越冬するトドの生態から彼らを取りまく国際情勢まで、知られざるトドのヒミツを紹介いたします。

目次

- | | | | |
|----|------------|----|---------------------------------|
| 1. | トドってどんな動物？ | …… | 秘密公開(親戚関係、大きさ、寿命、能力) |
| 2. | 羅臼のトド | …… | いる場所、生活パターン、食べ物
昔の状況とも比較してみる |
| 3. | どこから来るのか？ | …… | どこで生まれて、羅臼に来るのか？ |
| 4. | IUCN とトド | …… | トドを取りまく国際情勢 |
| 5. | 今後の課題 | …… | 重点的に調査すべき項目、
漁業被害対策の私案など |

■ トドってどんな動物？

- ・分類上は食肉目イヌ亜目アシカ科に属する。
- ・体長 210～250 cm、体重 205～410 kg（メス成獣）。オス成獣は 3 m、1 トンを超える。
- ・寿命 20～30 年、北太平洋沿岸に生息、出産期 6 月、1 産 1 子。
- ・平均潜水深度は約 50 m、2 分以内。頑張ると 300 m、8 分以上。深い潜水は夜間。
- ・餌探しのための平均移動距離は片道 20 km。最長で片道 263 km（3 日で往復）の移動例あり（夏の中部千島でのデータ）。

■ 羅臼のトド

- ・群れが滞在するのは例年 11 月～5 月。大部分が妊娠したメス成獣。
- ・流氷期前（11 月下旬～2 月上旬）の昼間は、沿岸の特定の場所（付き場）で休息。
- ・沿岸の「付き場」数カ所の群れの合計は最大約 100 頭。ピークは年末年始頃。
- ・ここ数年で、付き場が標津寄りの浅い方にシフトする傾向あり。
- ・流氷到来後は住所不定で観察しにくい。4～5 月の「戻りトド」は知床岬方面に多い。
- ・1 日平均 18 kg の魚やイカ・タコ類を食べる。魚種はなんでもあり。
- ・ここ 10 数年で、スケトウダラ・マダラ・タコ類の割合低下。雑魚を多食。

■ どこから羅臼へ来るのか？

- ・大部分が、中部千島で生まれた個体。
- ・焼印標識つき個体の追跡調査（国際共同研究）継続中。
- ・中部千島生まれのトドは、北海道の日本海側にも行っている（特にオス成獣）。
- ・オホーツク海北部やサハリン周辺生まれのトドも、少数が羅臼に来ている？調査継続中。

■ IUCN とトド

- ・遺産登録前、日本国政府宛てに二度の書簡 → みんなあたふた
- ・トドやスケトウダラの減少に懸念表明 → 漁業者の反発招く
- ・登録後の現地調査でトド肉消費に注文（オーストラリア人らしい発想か）
- ・現地調査団の報告書に、トドに関する勧告がまた載っている。
- ・IUCN は元祖レッドデータブックの発行元。トドのランクは高い。
- ・ランクが高い理由は、アラスカ西部とロシア海域で 1960～90 年代に激減したから。
- ・IUCN の姿勢や道内他地域の状況などを考慮すると、羅臼のトド駆除枠が今後劇的に増えることは考えにくい。
- ・駆除以外の被害対策の充実が急務。

■ 今後の課題

- ・夜間の羅臼沖での採食生態と流氷到来後の移動先の解明
- ・IUCN が求めてきた、船と威嚇弾などでの追い払いの試行と効果検証 など